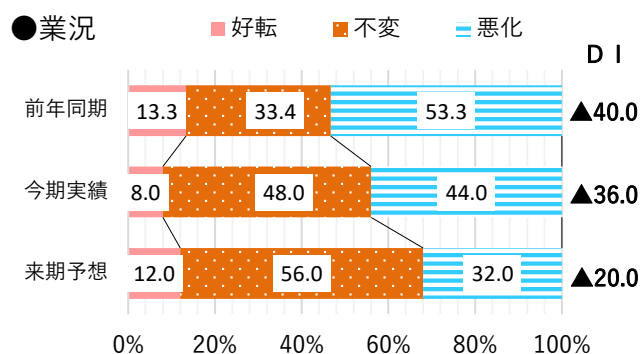


小 売 業

業況、売上、採算

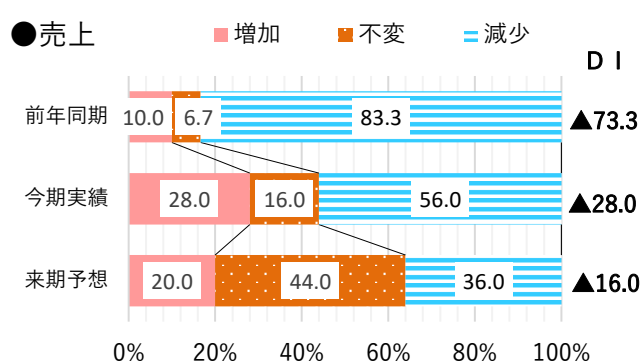
今期(2021.7~9)の業況判断DIは▲36.0で、前年同期(2020.7~9)と比べ4.0ポイント上昇しました。

来期(2021.10~12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



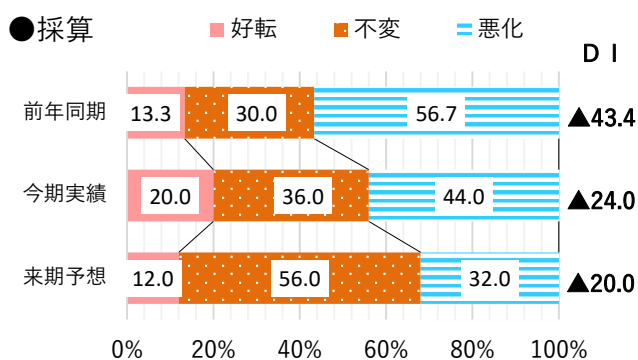
今期の売上高DIは▲28.0で、前年同期と比べ45.3ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

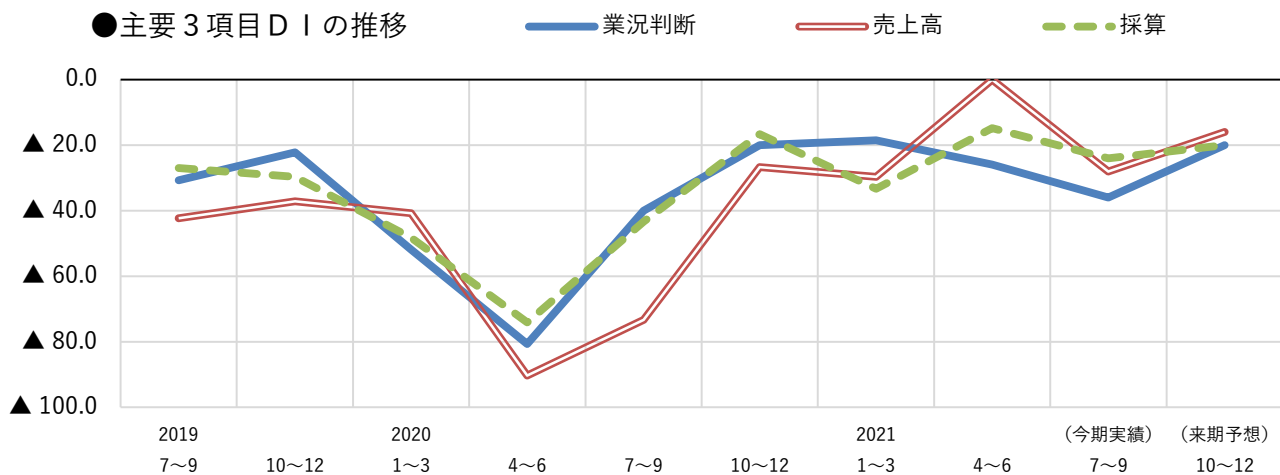


今期の採算DIは▲24.0で、前年同期と比べ19.4ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



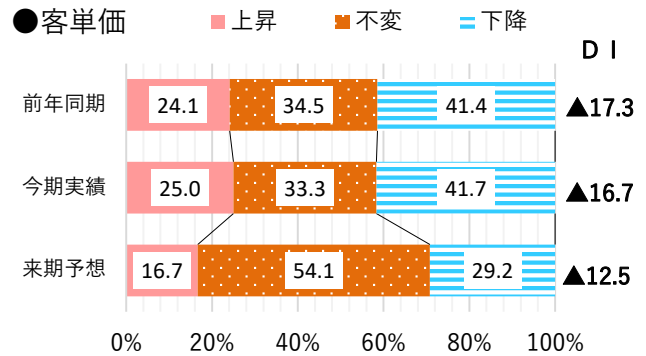
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

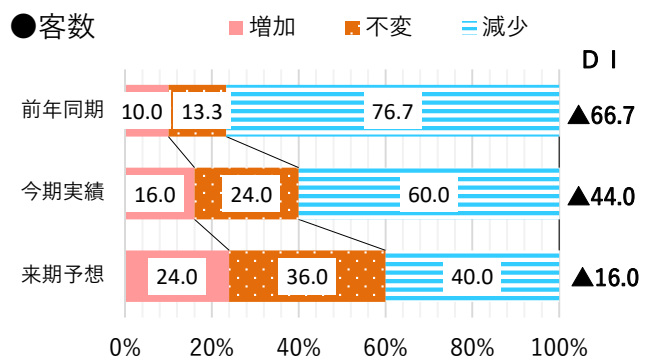
今期の客単価DIは▲16.7で、前年同期と比べ0.6ポイント上昇しました。

来期は、客単価の下降傾向が続くと予想しています。



今期の客数DIは▲44.0で、前年同期と比べ22.7ポイント上昇しました。

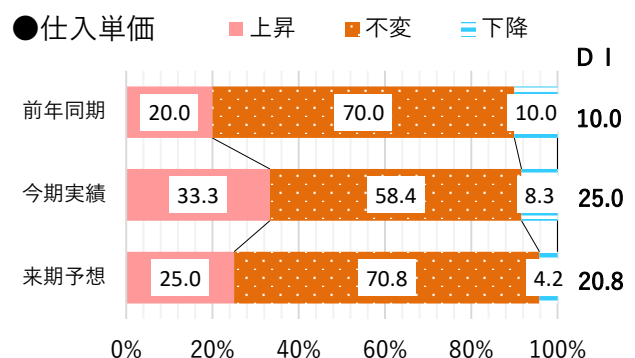
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

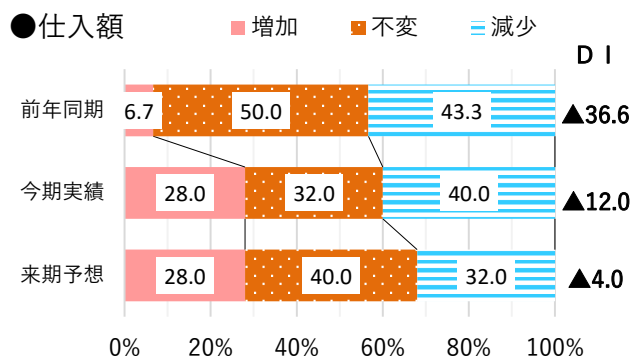
今期の仕入単価DIは25.0で、前年同期と比べ15.0ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



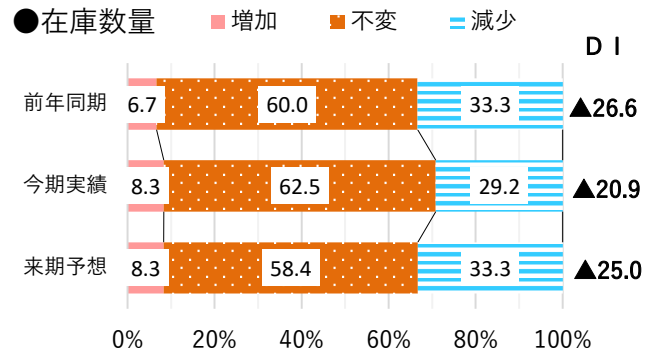
今期の仕入額DIは▲12.0で、前年同期と比べ24.6ポイント上昇しました。

来期は、仕入額の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲20.9で、前年同期と比べ5.7ポイント上昇しました。

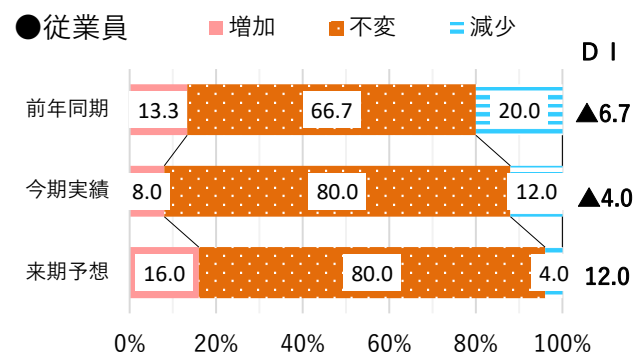
来期は、在庫数量の減少傾向が強まると予想しています。



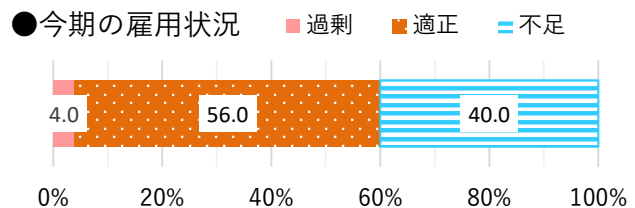
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.0で、前年同期と比べ2.7ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.0%、適正であると回答した企業の割合は56.0%、不足していると回答した企業の割合は40.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の52.0%を占めています。

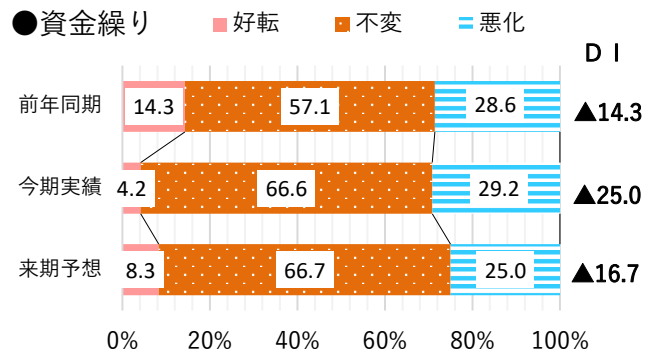
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	7
減少した	過剰	1
	適正	1
	不足	1

資金繰り、設備投資

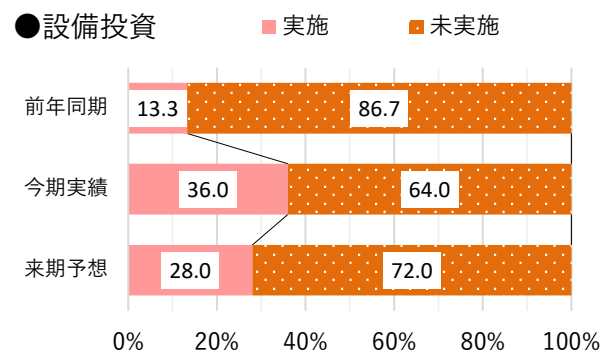
今期の資金繰りDIは▲25.0で、前年同期と比べ10.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



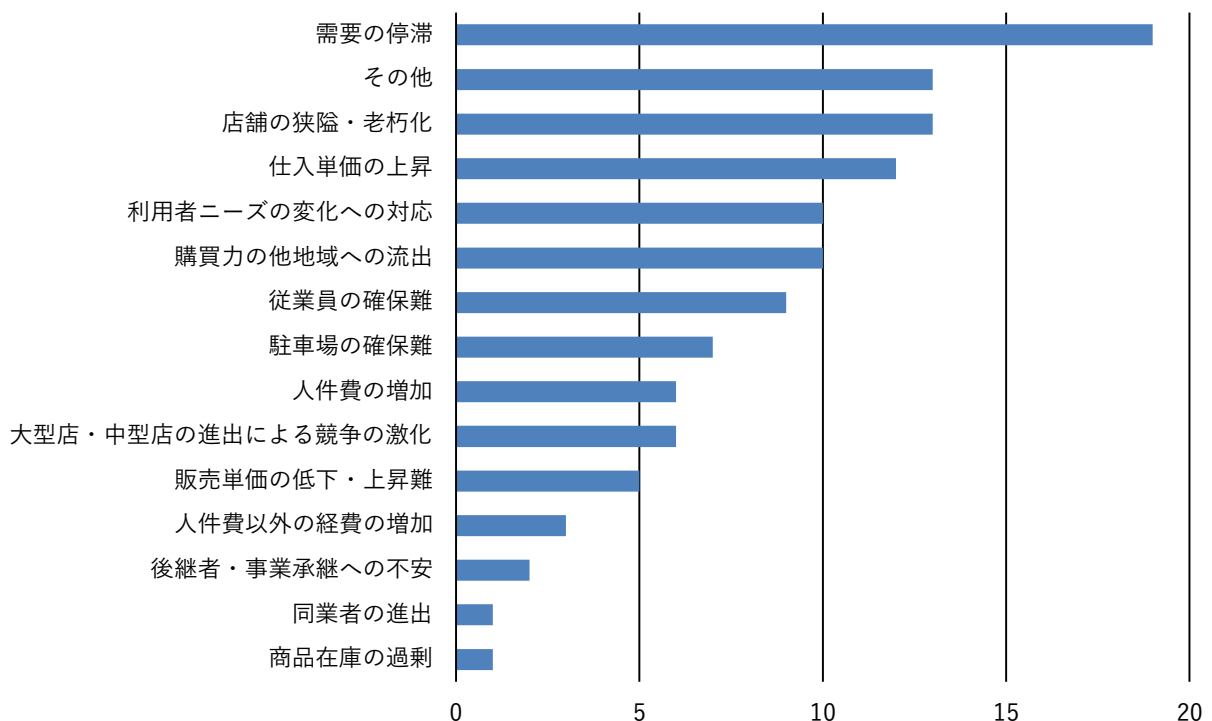
設備投資を実施した企業の割合は36.0%で、前年同期と比べ22.7%上昇しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「販売設備」、「車両運搬具」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は28.0%で、低下を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、「店舗の狭隘・老朽化」（同位）、3位が「仕入単価の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 緊急事態宣言等の影響で、全ての面で悪化している。好転する要素が見当たらないので、手の打ちようがない。ネットショップの販売は堅調に推移している。(食料品小売)
- コロナ禍による営業自粛や行動制限の要請が終わらない限り、現状が続くと思う。小麦や油関係の値上げが予定されており、売上が減少する中での利益縮小に頭を痛めている。(菓子製造小売)
- 店舗数が増加し、昨年ほどコロナ禍の影響がないため、売上が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- 若年層でのデルタ株流行や、都市間の往来自粛要請等の影響で、市民の不安が増大しているように思う。まちの人通りや、活気の回復に期待する。(衣服・身の回り品小売)
- コロナ禍においても、業績に大きな変化はない。(家具・建具・畳小売)
- 新型コロナウイルスの影響で半導体が不足し、海外部品の生産が止まった。車両の納入が遅れており、売上が減少した。(自動車小売)
- 各メーカーで新車の納車が遅れたため、新車の販売が減少した。(自動車小売)
- 業況は新型コロナウイルスの動向に左右されている。前年同期比の売上、客数はともに好転したが、設定した予算額には届かない。食品、日用品の売上は持ち直しているが、衣料品は不要不急の商品のため伸び悩んでおり、店舗全体の業績を押し下げる要因となっている。(大型店)
- 直近の営業数値を見る限り、売上等は下げ止まったように思われる。(大型店)
- 客数は減少したが、商品の値上げにより売上単価が上昇した。(ホームセンター)
- 昨年の8月、9月は取引先の売上が回復し、自社の売上も伸長したが、今年は緊急事態宣言の延長により苦戦している。(コンビニ)
- 新型コロナウイルスの影響で売上、客数、客単価いずれも悪化した。(コンビニ)
- 巣ごもり消費の影響で、顧客がネット販売に流れている。(ドラッグストア)
- コロナ禍による消費活動の減少、イベントの中止や縮小によって売上は減少した。(花・植木小売)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスの状況が少しでも好転するよう願っている。(食料品小売)
- 先が見通せず、不安な状況に変わりはない。(菓子製造小売)
- ワクチン接種の拡大による、新型コロナウイルス感染者の減少に期待する。(衣服・身の回り品小売)
- 店舗数の増加と、業況改善が続くと思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 厳しい状況にあり、今のままでは全てにおいて見通しが立たない。(衣服・身の回り品小売)
- 秋以降に大きな工事が予定されており、業況の好転が見込まれる。(家具・建具・畳小売)
- これまでの状況から判断すると、厳しい業況が予想される。(自動車小売)
- 業況の悪化を見込む。(自動車小売)
- 今期同様に、前年同期比では回復基調になると思われるが、一昨年をベースとした数値まで回復できるのか不安を感じている。業績が回復しなければ、売場設備への投資金額の回収が遅れる。(大型店)
- インバウンドや新型コロナウイルスの状況次第では、飛躍的な改善が見込まれる。(大型店)
- 業況は今期と同じ状況が続くと思われる。最低賃金の引き上げにより、人件費率が増加する。販管費を見直し、経常利益を維持したい。(ホームセンター)
- 新型コロナウイルスの終息と、Go Toキャンペーンの再開に期待する。(コンビニ)
- 最低賃金の引き上げで利益率が低下する。新型コロナウイルスの終息を願う。(コンビニ)
- ネット販売の強化等、ポストコロナを見据えた経営が必要だと思われる。(ドラッグストア)
- コロナ禍のライフスタイルが当たり前になっているため、業況は変わらないと思う。(花・植木小売)